

Radio On The Street  
西谷文和

# 路上のラジオ

ファンクラブニュース

発行責任者：西谷文和  
連絡先：〒564-0041 大阪府吹田市泉町1-22-33  
TEL 06-6170-4757  
メール otayori@radiostreet.net

このニュースは募金いただいた方、講演会に参加された方に郵送しています。今後も年に4回程度発行します。

## ●ラジオの聞き方

スマホやパソコンで「路上のラジオ」と検索してください。YouTubeで聞けます。チャンネル登録していただきますと、毎回お知らせが来るので便利です。

2025.3.18  
第24号

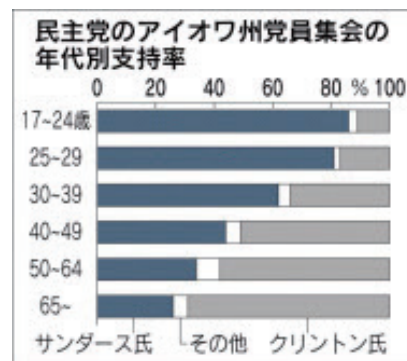


デマを信じた若者が実際にピザ店を襲撃してしまった

ロシアがトランプ勝利を演出  
2016年のアメリカ大統領選挙で「ロシアゲート事件」が起きたことを覚えておられるだろうか？当初はヒラリークリントンが先行していた大統領選挙だったが、「キワモノ・トランプ」が猛追、ラストベルト（錆びついた地帯）と呼ばれる五大湖周辺の州でトランプが勝利、大方の予想を覆

# フェイクで選挙が盗まれた デマを許さず、真つ当な社会を創ろう

す結果となった。この時トランプ勝利に大きく貢献したのがロシアのプーチンだった。ヒラリーの選挙参謀だったポデスタの私的メールをハッキングで盗み取り、それをウイキリークスでさらしたのだ。象徴的だったのが「ピザゲート事件」。ポデスタのメールを見たインフルエンサー（ネットで影響力の強い人）が、ワシントンDCのピザ店に民主党の幹部たちが集つて、店の地下室で児童売買春をしている、ヒラリーは児童性愛者である。こんな誹謗中傷のデマを信じ込んだ若者が、実際にこのピザ店にライフルを持って襲撃したという事件である。プーチンが犬



バーニーサンダース候補に若年層の支持が集中していた

背景にあったウクライナ戦争  
なぜロシアがメールをハッキングしてまでトランプを勝たせたかったのか？ 大きな理由の1つがウクライナ戦争だ。  
14年2月首都キーウに集まった民衆が「マイダン革命」を成功さ



ロシアはこのマイダン革命を否定したい、そのためにトランプに肩入れしていく

せ、ウクライナはEU加盟へと舵を切った。親ロシア派のヤヌコビッチ大統領が失脚し、彼はロシアに逃げた。その後、プーチンはニセ情報を拡散させながら、ロシア軍をクリミア半島に侵攻させて、まんまとクリミアを奪い、続いて東部ドニプロ州などで戦争を引き起こした。「ハイブリッド戦争」と呼ばれる一連の流れの中で、とうとう22年2月、プーチンがウクライナを侵攻し、3年が経った今も戦争が続いているわけだ。

### 大富豪とロシアが恐れたサンダース

16年の選挙ではバーニーサンダース旋風が起きていた。「1%の大富豪から富を取り戻し、99%の人々が幸せになる社会を」「大学授業料は無償」など、サンダースを支える若手世代が「民主党左

派」を作って、公共を大事にする社会に作り変えようとしていた。そうなれば大富豪とロシアはピンチ。人権や平和、福祉や教育を大事にするアメリカになってしまえば、「タックス・ザ・リッチ」(大富豪に課税せよ)の運動が世界的に広がってしまう。ロシアにはオリガルヒ(新興財閥)がいて、プーチンはオリガルヒの頂点にいる。実はトランプは4度破産している。メディアは「不動産王」などとも

ではやしているが、実態は「詐欺師の不動産屋」。破産寸前のトランプタワーを高額な賃料で借りることで、トランプを救ってやったのはロシアのオリガルヒたちだった。ロシアの真の目的はヒラリーとサンダースの間に楔を打ち込み、民主党を分裂させ、「コントロール可能な」トランプを勝たせることだった。売春スキャンダル、ポ

ルノ女優への口止め工作など、好色家で隙だらけのトランプはロシアにとつて扱いやすい人物である。  
**トランプ** **齋藤**  
**プーチン** **立花**

今回の「ウクライナ停戦合意」は、プーチンの手のひらの上でトランプが踊っているという構図。ウクライナのことをウクライナ抜きで決めるな!という当たり前の世論を高めない、国際法も人権も何もない、弱肉強食の、ジャングルのような世界にされてしま

うのだ。  
ネットでデマを拡散し、有権者をだまして票を盗み取る。これは兵庫県でも起きてしまった。分かりやすく言えば、トランプ **齋藤元彦**、プーチン **立花孝志**である。このように考えれば、イーロンマスクがドイツに行つて極右政党

A f Dを支援したのも頷ける。彼ら大富豪にとつては規制の多い(「公共」)EUは邪魔。だから英国のブレグジットのように、仏独伊などをEUから離脱させたい。そのためには極右であろうが何であらうが利用し尽くして恐怖をおお

り、全ての犯罪を移民になすりつけて、人類が長い歴史を経て積み上げてきた叡智を取つ払つて、ビジネスやり放題にする。トランプが「移民は犬を食べている」とXでデマを拡散させても、Xの所有者はマスクなので何のお咎めもない。「黒幕は竹内県会議員」とデマを振り撒いた立花は「岸口からも

らった」と、逮捕を免れようと必死である。「ウソついたもの勝ち」の社会にしてはならない。当ラジオでは引き続き、何のタブーも村度もなく、「黒いヤツら」を斬り飛ばしていきたい。(本文敬称略)

とつぶれてしまうような事態になると思います。

### 人生を変えた漁民との出会い

— 政府は昨年暮れに女川2号機と島根2号機を再稼働させました。まずは女川について。小出さんは学生時代、仙台にお住まいでしたね。

小出 私は原子力発電に夢を抱き、

# 小出先生に聞く その18 再稼働は日本破滅への道

— 今回のテーマは「政権を変えないと日本沈没? 政府の暴走を検証する」です。小松左京さんが74年に「日本沈没」を出されました。巨大地震に襲われて日本が沈

没してしまうというSFでしたが、これ、現実化してきましたよ。70〜80年代って地震があまりなかった時代、「静岡県で起きるかも?」と言われてたくらい。今は

明らかに巨大地震が頻発する時期に入りました。地震で原発が破壊されれば、経済的には「日本沈没」の事態になりますね。  
小出 経済的どころか、国が丸ご





福島より揺れた女川を再稼働

人生を原発に賭けようと思ったので東北大学の原子核工学科をわざわざ選んで入学したのです。ちょうどその頃に東北電力が女川原発の計画を打ち上げました。この時漁民たちが「なぜ女川？自分たちは電気を使っていない。電気をたくさん使っている仙台に作ればいいじゃないか」と声をあげたんです。当時は仙台火力発電所がありました。都会に作る方が、送電ロスがなく効率的。しかし原発だけは都会に建たない。私も「そう言われればそうだな」（苦笑）と思います、原発の安全性を調べ始めたのです。紆余曲折、例えば教授と

の論争などを経て、最後に辿り着いた結論は単純なもの。「原発は非常に大きなリスクを抱えているので、都会で引き受けることができなから、過疎地に押し付けられる」ということに気がついてしまった。ならば到底認めるわけにはいかない、と自分の人生を180度変えて、原発をやめさせるという立場に立つようになりました。

— おかげで、私たちは先生からたくさん学ぶことができています。女川原発は311の地震、震源地に最も近くて大きな揺れでしたね？

小出 はい、福島より近かった。津波にも襲われて危機一髪でした。なぜ壊れなかったか？福島原発の場合は、外部電源が全て断たれてしまったのですが、女川は1系統だけ辛うじて外部電源が残っていて助かりました。

— 1系統って、かなりヤバイ。もし女川も爆発していたら日本は終わってましたね。

小出 福島であれだけの惨事が起きてても、日本という国は全く懲りていない。私の仲間たちの中には「もう1度大きな事故が起きれば懲りるだろう」と言う人がいます。私は「多分ダメだろう、この国は全く懲りない国なんだ」と思っています。

**事故が起きれば避難できない**

— 女川原発は地震多発地帯に建てられています。この地域での再稼働は狂気の沙汰だと思えますが。

小出 はい、福島事故を招いた東北太平洋沖地震はM（マグニチュード）9.0でした。この地震が放出したエネルギーは広島原発3万発分です。人間の力など、話にならないほど小さくて、大きな地震が来たらひとたまりもなくなることを思い知らされたはず。ここですっかり懲りて反省しなければならなかった。去年の元旦には能登半島地震が起きました。これはM7.6で広島原発232発分です。道路は寸断され、家は全壊、海岸線が4mも隆起するという大災害でした。ひとたび原発事故が起こつてしまえば、全く避難はできないのです。

— その上に液状化して、村落が孤立していました。

小出 「屋内退避」という指令が出ても、家自体が潰れています。それでもこの国は原発を最大限活用する、と言ってます。呆れた国だと思います。

— 次に島根原発について。島根でも大きな地震がありました。その上ここは県庁所在地の松江市にほど近い。これも危ないですよ？

**自助、共助で対応不能**

小出 はい、まあ安全な原発なんてない（苦笑）ですし、県庁所在地に存在しているのは島根原発しかないのです。「目の前に断層がある」と住民たちも警鐘を鳴らしています。

— 石破総理の地盤は鳥取県。島根原発を動かせば、「あんたの選挙区、全滅でっせ」と誰か言う人いないのかな？

小出 地方創生とか言ってますが、原発を動かすと地方がどんどん衰退してしまうことに石破さん自身が気付くべきです。

— 政府の地震調査委員会が南海トラフ地震の確率を、今までの70%から80%に引き上げています。一方で地震に気をつけなさいと言いながら、一方で再稼働（苦笑）。

小出 宮崎県沖で地震が起きたので、先日、南海トラフ地震臨時情報が出されました。例えば旅行業、ホテルや鉄道などがかなり自粛させられました。しかし臨時情報を出した政府は何もしない。ビックリします。「注意をしろ」と言うなら、何よりもまず原発を止めなければいけない。政府はいつも「自助、共助、公助」と言うのですが、自助や共助はすでに地域で

編集長より

人生はじめての手術・入院を経験しました。諸先輩方には鼻で笑われそうな話ですが、頭でわかっていることと、実際に自分がその立場になってみるのととの違いは、雲泥の差なのだと思い知りました。

腰椎麻酔の痛みや、術後その麻酔が切れた後の患部の痛みは想像以上のものでした。それもそうなのですが、入院期間を通してしみじみ感じたことは、そんな自分を支えてくれる末端の医療従事者の皆様の献身的な仕事ぶりでした。ひとつ間違えば命に関わるかもしれない重責を負いつつ夜勤をこなすナーズステーションの皆様、時

に下の世話などつらい仕事も嫌な顔ひとつしないですてくださるヘルパーの皆様、食事や病室を整えてくださる事務方の皆様含め、誰もが明るい笑顔で居てください、本当に頭が下がる思いでした。

それにしても、この方々はいつたいどれほどの報酬で働いているのでしょうか？こういったエッセンスシャルワーカーの方々医療の日常を支えているのですから、十分な待遇が用意されてしかるべきだと思いますが、残念ながらそうではないのが実情のようです。運転手付きの高級車に乗り、料亭で会食をし、災害が起こればほんの

数時間だけ現地に赴き悲壮な表情をメディアに向ける仕事の政治家たちが、地べたに這うように暮らす人々の思いに寄り添えないのは必然なのかもしれません。特にちぐはぐな全体主義が蔓延する世の中においては、ひとりひとりの命や思いを起点にした社会が必要なのだと強く思いました。

もうひとつ、退院後は車いす生活をしていますが10センチほどの視点で街を見るようになって、たくさんのことに気が付きました。歩き煙草の火は、顔の高さにありとても怖いこと、即ちこどもの顔の高さです。人口減に悩む田舎町

の歩道はこぶだらけでとてもひとりで進めないこと、スマホに気を取られ歩く人が次々と進路に突っ込んで来ること、何よりも混雑した電車の中で注がれる冷たい視線。こうなってはじめて、私たちは多数側に合わせた社会に暮らすことに慣れすぎて、反対側にいる人々に思いを寄せる機会が少なくなっていることに気づく始末です。

「路上のラジオ」ではこれからもその名のとおり「路上」から小さな声を拾い集め、真摯に向き合いながら、必要な声をあげて参ります。

(ディレクター・山本素)

やっているのです。それでは無理な時に政府は公助を発動する、と言う。でも福島でも能登でも発動しない。何もかもが自助だ、という国。自分たちは何もせず、国民には「気をつけろ、気をつけろ」という(苦笑)。

—— ちょっと考えたら分かります。原発事故や地震は政府レベルの公助でしか解決できない。

小出 共助も無理。原発事故では共同体も壊れますから。(次号へ続く)

2024年収入の部 (単位:円)

前年度からの繰り越し	998,185
募金	7,174,638
合計	8,172,823

2024年支出の部

HP制作・管理	224,400
事務所家賃	360,000
番組制作費	6,368,448
合計	6,952,848

来年度へ繰り越し 1,219,975

**みなさんからのご寄付で24年度も毎週発信を続けることができました。ありがとうございます。引き続き発信を続けてまいります**

編集後記

ウソウソ、ウソよみんなウソ、あなたの言うことみんなウソ～ 立花、岸口、増山、吉村、トランプ…。記者会見をまともに見ていたら腹が立つので、脳内でこの曲を流すようにしている。兵庫県知事選挙で、テレビや新聞がもっと早く立花のデマをファクトチェックしておれば、竹内県議がネットリンチにさらされずに、自死されなかったかもしれない。テレビよしっかりしろ、と思っていたらTBSの「報道特集」がデマに切り込んでくれた。胆力ある現場スタッフに拍手を送りつつ、私もミニコミラジオで頑張ろう、と決意を新たにしている。引き続き「立花をブタ箱へ」運動を続けます。